

# OneGeology

## ブライトン合意 - Revision 2017

2007年3月12日-16日、43カ国と53の国立機関と国際機関から81名の参加者が英国ブライトンに集い、全球的なものから地域的、各国規模にいたる地質図データの入手を容易にし、それにより社会に対する利便性を向上させるにはどうすればよいか討議し、合意に達した。

地質図データが科学や教育の向上に欠くことのできないものであり、これにより環境災害を軽減し、エネルギー、鉱物、水の安定供給を保証し、我々が直面する気候変動に緊急に対処するための解決策が提供できることを、われわれ参加者はワークショップにおいて強調した。

2017年9月、OneGeology 理事会において改訂。

### 提言

われわれ参加者は、以下に掲げる 10 提言を地質調査所等の諸機関に伝達する必要があるという点で合意し、ブライトンでの会合に参加しなかったすべての地質調査所等の諸機関がこれらの提言を受け入れるよう、しかも公式な形で受け入れて、OneGeology 構想への参加に同意するように、彼らに働きかける。

1. OneGeology 構想は以下の使命をもって行われる。

**OneGeology は、国際惑星地球年を契機として開始された世界中の地質調査所が行う構想で、全世界の入手可能な最高品質の地質図デジタルデータおよび地球科学に関連するデジタルデータを公開、インターネットでのアクセスを可能にして、社会のニーズにさらに取り組むものである。**

2. OneGeology は、すでに地質図が作成されている範囲をアクセス可能にすることから始める。これにより世界的地図データのシームレス化が促進されると考えられる。

3. OneGeology が最優先するのは、すべての地質図データをアクセス可能にすることである。さらに、だれにでもアクセスができ、より解像度の高いマッピングができるよう、そうしたアプリケーションとのリンクおよび相互運用を行う。

4. OneGeology は社会に利益をもたらす、また、地図ならびに地球科学のデータを提供している地質調査所等の諸機関の効率と実効性を向上させることを目指す。

5. OneGeology とその参加者は、その活動と目標を支援する資金獲得の努力をし、また OneGeology 遂行と参加者の能力向上のための相互支援を提供する戦略を立てる。

6. OneGeology の一環として配布された地図データならびに地球科学データの所有権は製作者である地質調査所等の諸機関にあるが、理想的には（ただし、必ずしもそうでなくてはならないということではない）GEOSS データ共有原則 ([https://www.earthobservations.org/geoss\\_dsp.shtml](https://www.earthobservations.org/geoss_dsp.shtml)) に従って、ユーザーが無料で利用できると、参加者は認識している。

7. OneGeology は地質調査所等の諸機関の代表からなる運営グループによって運営される。OneGeology はより広範な地理空間情報コミュニティとも積極的に交流を行う。またその目標達成のため、タスクグループを設置する。この構想を確実に持続、継続させるため、運営組織、データ提供者支援、WWW ポータルを設置する。

8. OneGeology が優先するのは、相互運用可能でインターネットでアクセスできる科学属性情報の利用を可能にし、参加者の能力に応じたレベル向上を図ることである。

9. 地質調査所等の諸機関は、協力して必要な情報互換標準の開発と遂行を行い、データの相互利用を可能とすることが望まれる。

10. OneGeology での進展は広く公開し、また万国地質学会議で毎回発表を行い、データへのインターネットアクセスの増加を提示する。

本合意は 2007年3月16日、英国ブライトンにて開催された OneGeology ワークショップにおいて、満場一致で承認された。